

# 事業承継計画の策定及び株式集中、社内体制の再構築を支援

## <F 社>

許可業種	土木、建築、とび土工、水道施設、管、舗装、造園	売上高(完工高)	571,000 千円
資本金	45,000 千円	従業員数	31 人

【支援前と支援後の進捗度】支援前の段階：○ 支援後の段階：●

未検討又は重要性理解の段階	現状把握の段階	後継者・承継方法確定の段階	事業承継計画策定の段階	具体的対策実行の段階
○				●

## 1 支援の前

事業承継の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現経営者が高齢</li> <li>・今後の経営ビジョン策定が喫緊の課題</li> </ul>
後継者	実子 (長男)
交代予定	3 年後
支援に対する期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後 3 年間の事業承継計画の策定</li> <li>・組織的に運営できる仕組みづくりや経営ビジョンの策定</li> </ul>

## 2 支援の概要・今後の展開など

担当専門家	平松昌氏(中小企業診断士)
主な支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業承継計画の策定</li> <li>・社外株主との売買協議の実施</li> <li>・外国人労働者募集の助言</li> </ul>
後継者	実子(長男)
他の専門家等との連携・協力の状況	-
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設業特有の要因として、新入社員の雇用確保が困難になっていることがある。従業員の離職や退職等により、従業員不足が懸念材料である。</li> </ul>
対応策・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手従業員による卒業学校へのアプローチにより、定期的に新入社員を確保していく計画である。</li> <li>・中途採用や外国人労働者を確保することで、安定した経営を行っていく。</li> </ul>

### 3 支援を振り返って～担当専門家から一言～

－支援で大変だったこと、うまくいった点・うまくいかなかった点、これだけでも早く実施しておけばよかった点など－

事業承継を行うにあたり、社外株主からの株を買って、社内株主を集約することが目標であったが、社外株主が複数いたため、当社が買取できる1株当たりの金額を算出し、その妥当性についての内容をまとめることが大変であった。

良かった点としては、現経営者と後継者である長男が持つ経営課題について意見を出し合ってもらい、認識のズレが明確になり、取り組む事柄の優先順位について両者が共通認識を持ってもらえたことが挙げられる。

うまくいかなかった点としては、当社の経営課題は、若手の人材確保であったため、ハローワークなどの紹介や外国人労働者の募集方法についてアドバイスをを行ったものの、成果を得ることができなかったことが挙げられる。

事業承継に取り組むには安定した経営が必要であり、そのためには人材(新卒採用、中途採用、外国人労働者の確保)の確保・育成が、当社の大きな課題である。